

「延世大学校スプリングスクール派遣参加報告書」

京都大学理学部 1 年 CHEN PEINI

今回は延世大学校スプリングスクールの短期留学に参加しました。短い間でしたが、韓国語の基本知識とさらなる勉強への意欲、それからよりグローバルな視点を獲得したと思います。

今回の延世大学校スプリングスクールでは、三週間の集中韓国語講義に加え、延世大学生との交流セミナーが二回開かれました。集中韓国語講義では世界各国から韓国語を学びに来た人々と同じクラスになり、韓国語基礎のハングルから簡単な自己紹介、部品の名前や校内にある各建物の位置関係と韓国語名を習いました。三週間平日のうち毎日4時間の授業があったのに対して、学習内容は少ないと思いますが、その代わり一つ一つの韓国語を何度も書く練習、話す練習を重ねた結果、単語の応用をしっかりと身に付けることができましたと思います。まだ、先生は学生全員がしっかり覚えられたことを確認するために、新しく教わった単語や文章を一人一人ずつ必ず読ませよう時間をかけて練習させました。授業のリズムが遅いと感じていましたが、学生の間で習得した内容に差が生じないための工夫だと感じました。私はほかの学生が練習している間、教科書の先の内容を予習したり、自分が持っている韓国語教科書を見ながら有意義な時間を過ごしていました。

一方、延世大学校学生との交流セミナーでは、これまでにない大きい刺激を受けました。セミナーの一回目は、村上春樹さんの短編小説である『納屋を焼く』とそれに基づいて改編した韓国映画「バーニング」についての考察でした。私は修士生の深田明さんと同じ班にされて、韓国語で発表することになりました。韓国語で発表できるために、韓国語初心者である私は韓国人にスクリプトを読んでもらいその録音を数回聞いて、流暢に話す練習を重ねていました。当日は緊張して何度も嘔んでしまいましたが、何とか無事に発表できました。比較文学について考察するのは、今回がはじめてでしたので、深さのある質問や観点は出せなかったが、延世の学生たちが注目するところや彼ら自身の経験を聞いて、比較文学について一層理解が深まったと思います。村上春樹文学を専門に研究する先生の観点を軽く触れる機会がありました。

二回目のセミナーは事前に韓国映画に関するオンデマンド授業をみて、その後延世の学生と交流するセミナーでした。一つの映画をデザイン、歴史背景、文化影響などの多様な視点から考察するのは、リフレッシュな体験でした。今までこれほど真剣に映画について考えてなかったのが、映画は学問深いものであると実感できました。二回のセミナーを受けて、一番驚くのはやはり韓国学生の英語力でした。ネイティブに近い発音はもちろん、単語の無駄のない使用や自分の考えを短時間で英語で流暢に話せることにもものすごく刺激を受けていました。私自身は英語でうまく自分の考えを短時間にまとめて、簡潔かつ正確に伝えるスキルを身につけていないので、このセミナーをうけて、これから自分の英語をよりうまく使用するための努力を惜しんではいけないと強く感じました。海外留学はいつも視野に入れてるので、将来の海外留学に向けて、今回の短期留学は前に進む大きな一歩でした。海外ではこれほど英語を要領正しく使用できる人がたくさんいることを気づかせた貴重な経験になりました。

今回の短期留学に参加して、韓国語という言葉や言葉を学べたほかに、韓国のエリートたちの英語実力を実感することができました。これからは韓国語を簡単な日常生活に困らないレベルまで学び、英語は読む書く話す練習を重ねる目標を達成したいと思います。